

(仮称) 小国町次期総合センターの建設が始まります

おぐに開発総合センターは、長年にわたり各種サークル活動や発表会、会合、図書室機能など町民の社会教育や文化・芸術活動等の拠点として大きな役割を果たしてきました。しかし、施設の老朽化や社会構造の変化、生活様式の多様化への対応、避難所機能の充実といった課題を解消するため、新たな施設建設の必要性が生じたことから、これからの小国町を担う人材の育成やまちづくりの中核施設となる『次期総合センター』の整備について検討を進めてきました。

今月はいよいよ建設が始まる次期総合センターの概要と機能について紹介します。

これまでの経過

おぐに開発総合センター（以下、現総合センターとする）は高度経済成長等によって生活様式や社会構造、経済的情勢が急激に変化するなか、山村地域を振興するため、教育や福祉、文化活動の拠点となる複合施設として建設され、昭和43年の完成以来、社会教育や芸術・文化活動等の拠点として、本町の地域づくりを推進するうえで重要な役割を果たしてきました。

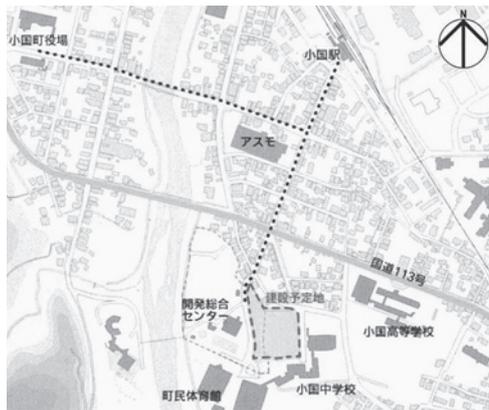
しかし、建設から半世紀以上が経過し、施設・設備の老朽化や社会生活等の多様化、公共空間に求められる機能の変化といった多くの課題を抱えています。

そこで、地域づくりの中核的機能や地域創生機能を備えた新たな施設整備の必要性が高まっていることから、平成26年度から27年度にかけて、

これからのまちづくりに求められる施設として次期総合センター整備構想を取りまとめました。

平成28年度には次期総合センター整備基本計画策定委員会を設置し、有識者によるアドバイザー会議の専門的知見による指導と助言をいただいたほか、町民のかたが主体となった検討委員会から新しい施設に必要な機能等についてご意見をいただき、それらを基に平成29年4月に小国町次期総合センター整備基本計画を策定しました。

本計画では、次期センター



▲次期総合センター建設予定地

特集 (仮称) 小国町次期総合センターの建設が始まります

建設候補地として、町民広場周辺が検討されていきました。しかし、そのエリアが平成31年に県が公表した「想定最大規模浸水区域図」の浸水区域に指定されたことから、現総合センターが今まで果たしてきた役割の継続性や交通環境、防災・災害対策などを総合的に考え、文教地区内で再検討し、おぐに保育園跡地を建設予定地として選定しました。このことから、令和3年度に次期総合センター建設の基本設計を見直した後、令和4年度及び5年度の2カ年をかけて実施設計を行いました。

またこの間、次期総合センターがこれからの小国町を担う人材の育成や社会福祉、文化・芸術活動の基幹施設として、町民の皆さんの拠り所となり、町の新たなシンボルとして親しまれ、ともに成長していく施設、安心安全で長く使用できる施設とするため、複数回にわたり町民説明会を開催し、町民の皆さんのご意見をうかがいました。そして、本年10月にその建設に着手し、令和7年度までに完成、令和8年度の開館を予定しています。

次期総合センターの概要

○総合カウンター

施設の案内や予約などの窓口機能のほか、観光案内や移住定住促進、小国の文化を伝承する機能を持ちます。

○町民ホール

前方は可動席、後方は固定席となっており、多様な空間利用が可能で、緊急時には避難所としての機能も持ち合わせています。

○ライブラリー（図書室）

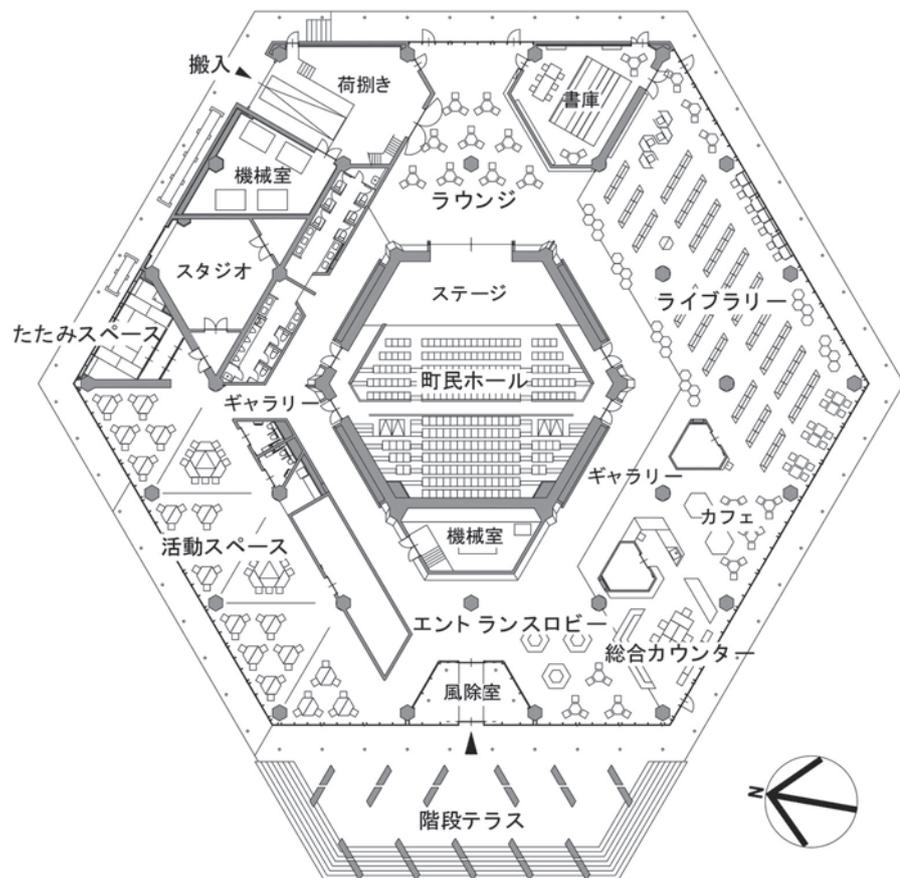
25,000冊以上の図書を所蔵し、様々な学習の場として利用できます。また、町内外の多様な世代が誰でも利用できる交流拠点としての機能も持ちます。

○町民ギャラリー

町民ホールの壁面など作品展示が可能な箇所を多く設定し、多様な展示形態にも対応可能です。

○活動スペース

ひとつの大きな空間で様々な活動が行われることにより交流や活動の創造性、賑わいを生み出します。たたみスペースでは茶道や華道の活動が行えるほか、遮音機能を持つスタジオもあり、演奏やダンス等の活動も可能です。



▲次期総合センター平面図

特集 (仮称) 小国町次期総合センターの建設が始まります

木材を活用し、温もりのあるデザインとなっています。施設の外周には、ぐるりとガラスが張り巡らされており、建物の外にいても、活動の様子やその賑わいが伝わります。

また、総合カウンターやライブラリー(図書室)、活動スペース等の機能をひとつの空間に設置することで、それぞれの利用者が顔を合わせる機会を増やし、活発な交流を促進します。

なお、建設に係る費用については約26億円を上限に設定し建設を進めていきます。このうち、国の補助金を活用するとともに、有利な起債を財源とすることで町の単独経費を少しでも抑えて整備することとしています。

町の新たなシンボルとして

次期総合センターには、現総合センターが担っていた研修や図書、芸術文化、社会教

育の推進等の機能のほか、生涯学習や芸術活動を支援し、町内の優れた地域文化を発掘・伝承していく場や新しい人の流れや外部との繋がりを生み出す場、気軽に集い、憩える交流の場としての機能が備えられています。

町ではこれからも、次期総合センターが本町の新たなシンボルとして、子どもから高齢者まですべての世代のかが気兼ねなく利用できる施設、町内外の人が訪れ、積極的に交流し、新たなアイデアやビジネスが創出する施設となるよう、着実にその建設を進めてまいります。



▲ライブラリー (図書室)

次期総合センターに期待すること

■センター図書室利用者 佐藤麻里さん(緑町)

「今の図書室は読みたい本がある、調べたいことがあるなど目的があるから行く場所になっているように感じます。新しいセンターの図書室には明るくオープンで、子どもたちや地域の人々がぶらりと立ち寄れるような居場所になってくれることを期待しています。また、時間外に図書を返却できるボックスを設置するなど利用者の利便性が上がるような工夫があるといいなと思います」



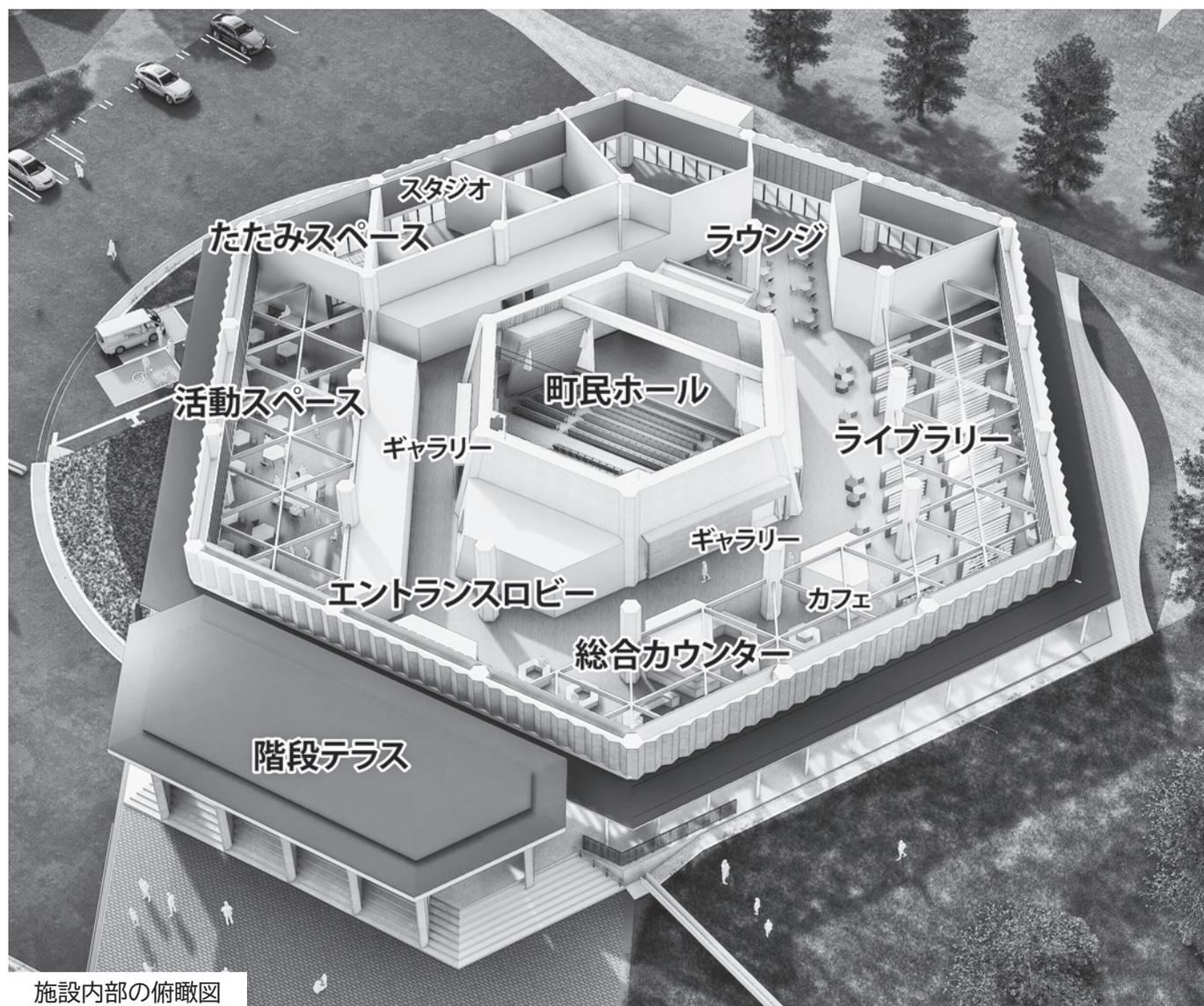
ハーラウ フラ オ ブアレファ

■Hālau Hula O Pualehua 小国クラス代表 三島木まどかさん(栄町)

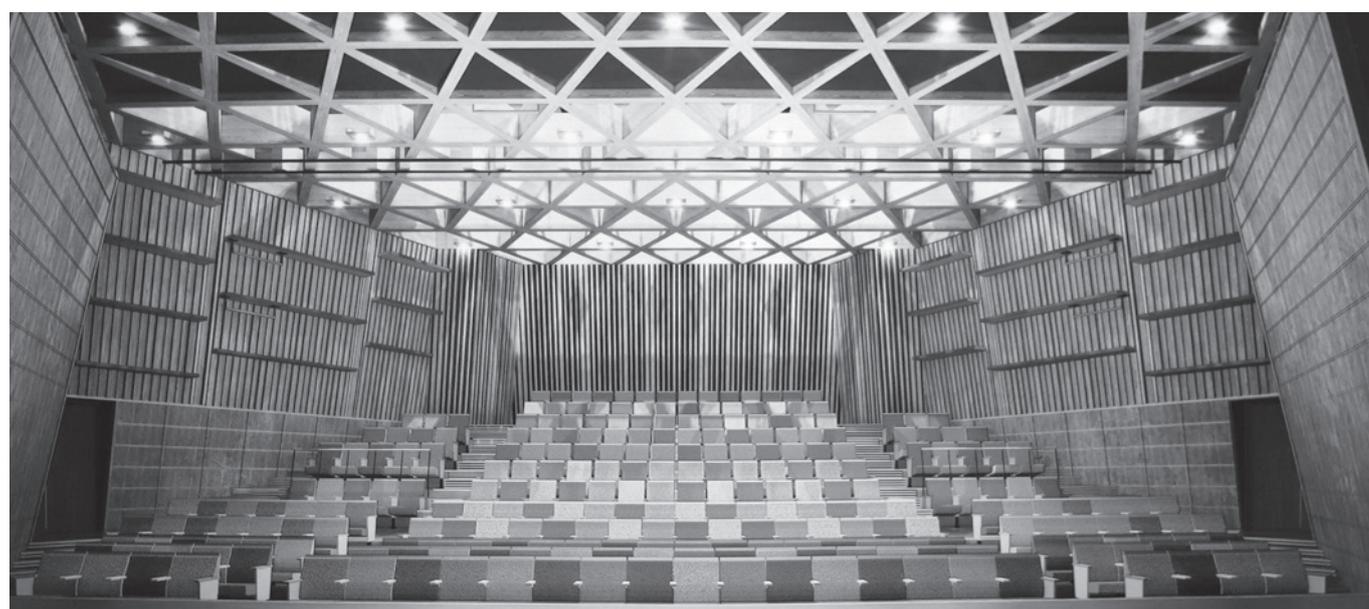
「月に1度、昼は総合体育館、夜はおぐに開発総合センターで活動しています。フラダンスは群舞であり、全員が息を合わせて踊る必要があります。鏡で確認しながら練習することが重要です。そのため、練習場所が限られています。新しい総合センターには鏡が備え付けられているスタジオができるということですので、今までよりも快適な環境で練習でき、活動がよりよいものになると期待しています」



▲町内外のイベントで踊りを披露



施設内部の俯瞰図



町民ホール

Toshio Homma & Associates